

世界でオンラインワンの マニピュレーターメーカーへ

株式会社 マイクロサポート
代表取締役社長 松本 泰治

分析用マイクロサンプリング機器の開発・製造・販売を行う株式会社 マイクロサポート。特に顕微鏡下で微細作業を行うマイクロマニピュレーターやアクセサリーは、多くの世界的企業で採用されており、提供するアプリケーションは100種に迫るラインナップで業界内トップクラスです。強みは、システムだけでなくユーザーそれぞれに応じたカスタマイズやオリジナルツールを提供できること。令和6年には有機分析サポート事業を開始し、国内はもちろん海外展開も強化しており、今後さらなる成長が期待されています。

加速的支援を受けて 特許権を取得

当社は、十数年前からINPIT静岡 岡県知財総合支援窓口(以下、「知財窓口」という)の支援を受けており、何かあるたびに支援担当者を訪ねては「こんなことを考えているのですが、ちょっと教えてください」と気楽に相談できる関係性を築けていました。平成30年頃までは、売上は上がっていましたが当社製品が大手



INPIT静岡県知財総合支援窓口(加速的支援)を知った/利用したきっかけ

従前よりINPIT静岡県知財総合支援窓口の支援担当者とは面識があり、知的財産を移管する相談をしていた。平成30年頃、既存事業の売上が伸び悩んでいたこともあり、新製品開発、海外展開、営業秘密管理などについて相談したところ「加速的支援」を紹介された。

企業にある程度浸透していたことからやや伸び悩んでおり、新たな事業戦略を模索していました。同時に社内の営業秘密管理に対する不安などもあったので、いつものように軽い気持ちで支援担当者に相談したところ「営業秘密管理を含めた事業戦略や知財について支援する加速的支援があります」と提案がありました。その後、加速的支援を受けるとになり、その過程で特許権を取得できました。

顕微鏡で正確な寸法を測るには真上から見る必要がありますが、作業する場合は斜めからになります。そこで、顕微鏡を交互にスイングさせることで観察と作業を簡単に行える機器を開発しましたが、当時は特許権取得に前向きになれず、出願をしていませんでした。

心境が変わったのは加速的支援を受け始めてからで、特許権取得の重要性

MicroSupport



株式会社 マイクロサポート

所在地: 静岡県静岡市駿河区敷地 1-3-19

業種: 分析用マイクロサンプリング機器
の設計開発・製造・販売

従業員: 20名

創業: 平成18年5月

資本金: 1000万円

URL: <https://www.microsupport.co.jp/>



について専門家による支援チームの1人だった弁理士からアドバイスがあり、また、出願前に特許情報分析を受けたことで、特許権取得の必要性を実感し、かつ取得の自信にもつながりました。

違う視点や戦略が見える 経営デザインシート

加速的支援では、様々な専門家からアドバイスを受けることができ、都度、課題もあります。いただいたアドバイスには自分では思いつかないこともあり、そのアドバイスをもとに行動すればできるのだといったセオリーも学びました。当社では毎年経営指針を作成し、営業や製造などの各部門で年間計画を立てていたため、「経営計画書の作成は、ある程度できている」と思っていました。支援で使われた経営デザインシートを作成すると全く違う視点や戦略が見えてきました。これがとても衝撃的でした。

経営デザインシートはたった1枚のシートですが、自社の戦略を作るストーリーが見えてきます。そこでできたストーリーから、自分が考えていたことは違

う発想が生まれました。その違いが大きな影響を与えることもあります。自らはなかなか行動しないタイプの私には、このシートが大いに役立ちました。

営業秘密管理や知財管理の 体制構築を実行

加速的支援は1年半、月1回のペースで続き、その間、社員を交えて営業秘密管理や知財管理体制構築のミーティングも行われました。営業秘密管理は特に重要だと考え、途中から加速的支援とは別に通常支援で実施していただきました。営業資産・知財の情報整理ができていないという課題も見つかり、オフィスの棚やサーバー内の情報を整理しました。

お客様や社内の秘密を守る事は徹底できていると思っていますが、社員に「秘密保持の契約書にサインしろ」とは言い出しにくく、また、社員を信用しているの、必要ないとも思っていました。しかし、支援を受けるうちに知財戦略エキスパート(旧 知的財産アドバイザー)が「秘密保持契約は企業が必ずやるべき重要事項」と社員に説明し、サインを求めてくれ、とても助かりました。

加速的支援をうけて、企業としての方針が明確になったことも重要です。国内では売れる製品が変わってきており、工夫しなければならぬ状況です。現在は海外市場への展開を拡大したいと考え

ています。今年は、毎月1〜2回の海外展示会に参加し、そのために外国人も採用しています。売上が増えていなくても人材への投資として、人員を増やす方針です。展示会の出展費用は高額ですが、そこに向けて投資することが今は重要だと考えています。



取引先と遠隔操作で動作チェック

今後の新たな戦略は 新装置開発と受託分析サービス

今後の戦略の1つは新装置の開発です。当社のマイクロマンピュレーターは、工業系企業などの品質管理部門で使用されています。同じ部門で使用するマキシング装置や加工装置等を販売する従来のお客様に向けた事業だけではなく、新しい市場に向けた測定装置などを開発し、科学機器メーカーとして、より広くお客様の成果に貢献できればと考えています。

2つめは受託分析・解析サービスです。当社の技術は、数ミクロンの異物を取り出し、切断・剥離・振動による削りなどを行うアクセサリが強みです。つまり、

これまでは分析装置に異物を乗せるまでが当社の役割で、分析・解析を行うことはありませんでした。しかし本サービスでは、分析・解析を新たな事業とし、知識と経験豊富なスタッフが担当します。また、同時にそれに関連するアクセサリの開発も進めています。



「アクセスプロFC」による作業
引用: <https://www.microsupport.co.jp/>



顕微鏡一体型マイクロマンピュレーター「アクセスプロFC」

引用: <https://www.microsupport.co.jp/>



念入りの出荷前の最終チェック

支援を受けた製品

マイクロマニピュレーター

加速的支援を受けて、マイクロマニピュレーターの観察・操作方法に関する特許権を取得しました。どのようなものかと言うと、顕微鏡で観察する際は真上から見ると正確な寸法が測れますが、斜めからだと難しい。そこでまず真上から観察し、その後、顕微鏡を手前にずらして観察しながら、真上から作業を行います。この位置を交互にスイングさせることで、観察と作業を簡単に同時に行えるようにする機構を特徴とするものです。このような簡単なアイデアですが、意外にもこれまでに特許が与えられていなかったため、特許として認められました。



引用：https://www.microsupport.co.jp/

主な知財

特許権

マイクロマニピュレータ 並びにマイクロマニピュレータによる観察・操作方法(特許第7525835号)

商標権

Micro Support(登録第6570320号)、RheoStylus(登録第6729930号)、Quick Pro(登録第6800250号)

加速的支援項目

- 1 経営デザインシート策定
- 2 知財戦略構築
- 3 契約検討
- 4 知財体制整備

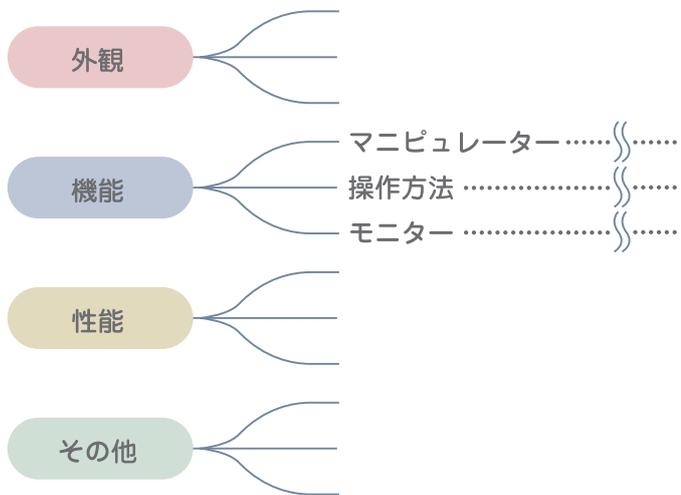
も海外にも成長の機会を求めています。最近、国内では、大型の機器が売れるようになってきたり、これまでのような装置が出るようになったり、新しい戦略ができています。昨年度は決算期変更で9ヶ月間

もう一つは、支援中に全社員で「製品ロードマップ」と名付けたマインドマップを作成したことです。これは、加速的支援を受けるなかで、ロードマップを作成したことをきっかけに、支援に同席した開発

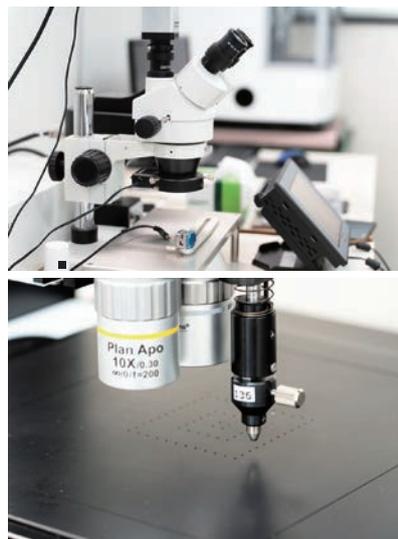
加速的支援を受けて良かったのは、どのような結果が出たかということよりも、支援を受けたこと自体が非常に重要だったということです。一年半にわたる支援の中で、社員も同席したことから、「会社を成長させるためには、新しい商品を開発しなければならない」という意識を共有できました。社内で特許を出そうという熱意が増し、経営計画や知財管理などを含めて、会社を伸ばしていくという方向に全社員が向かうようになったと感じています。

社員の意識変化・社員が自主的にまとめた製品ロードマップ

マイクロマニピュレーターの将来像



リーダーが、社員の意見をまとめて自主的に作成してくれたものです。製品の将来



オフィスには様々な機器が並ぶ

来形を考えるために全社員からアイデアを出してもらいました。例えば、マイクロマニピュレーターが将来どのように使われるか、どの方向に進むべきか、不足しているものは何か、将来的に必要なツールは何かなど、色々なアイデアが出され、なかには現代の常識ではあり得ない夢のようなものもありました。ですが、この取り組みは大いに意味を持ち、10年後の目標も設定されたうえこれをきつ

かけに開発した製品もあります。作成した「製品ロードマップ」は、外観・操作性・安全性・機能性などに分かれており、非常に分かりやすく整理されています。これは支援の流れのなかで、社員が新しい商品を開発しなければならぬという方向性に共感してくれた結果だと思っています。ちなみに、このロードマップは今でも使用しています。目の前の目標は、やはり売上と粗利を大きくすることです。社員にも話しています。利益を上げて全員が幸せになるというのが、もちろん大切ですが、粗利の大きさは、お客様の満足を表す指標でもあり、これを増やすことが会社の使命だと考えています。そのため、国内に重心を置きながらも海外にも成長の機会を求めています。最近、国内では、大型の機器が売れるようになってきたり、これまでのような装置が出るようになったり、新しい戦略ができています。昨年度は決算期変更で9ヶ月間



社員の表情も明るい。
若手社員も増えてきた



INPIT 関係者との
ミーティング

での決算でしたが、年ベースで110%の売上となりました。それに加えて海外での実績を伸ばすことで、将来的には世界でオンラインワンのマイクロモニタリングターメーターとして成長し、同時に、化学系の測定機器を開発することで、第2、第3の柱を作りたいと考えています。

加速的支援は「会社の幹を太くする」

INPITの加速的支援は「会社の幹を太くするもの」で、太くなった幹に対して枝葉は自分たちの責任で成長させる



INPIT 静岡県知財総合支援窓口の
支援担当者

せていくというイメージを持っています。もし、知財や経営に悩む経営者がいたら、すぐに各都道府県のINPITを知

専門家からのコメント

分析用マイクロサンプリング機器を含めた事業戦略、事業戦略を見据えた開発戦略、営業秘密管理・知財管理等の支援を通じて、社長のみならず全社的にそれらが共有化され共感されることで、主体的に行動される社員も増え、企業全体のケイパビリティが向上されたと感じています。特に、社長ご自身が経営デザインシートは作成を通じて新たな視点で事業を見つめ直されたり、紹介したマインドマップの手法を活用して社員の方が主体的に製品ロードマップと名付けて製品のアイデア出しを行ったりと、それぞれのお立場でしっかりと取り組んで頂いたと感じています。加速的支援で得たものを加速的支援後も継続的に有効に活用できるよう企業として成長されたことが大きな成果と考えます。

活用専門家

中小企業診断士、弁理士、弁護士、知財戦略アドバイザー(現 INPIT知財戦略エキスパート)



工業所有権
情報・研修館

加速的支援を受けての効果

- ◎ 経営デザインシートを使うことで、全く違う視点や戦略が見えてきた。
- ◎ 営業秘密管理や知財管理の体制を構築することができた。
- ◎ 「会社の成長のために、新しい商品を開発しなければならぬ」という意識を共有できた。
- ◎ 社員全員が参加し、製品の将来性を考える製品ロードマップを作成できた。

松本 泰治 Yasuharu Matsumoto

昭和38年生まれ

- 1985年 松本鉄工所(現(株)松鉄エンジニアリング)入社
- 2006年 株式会社マイクロサポート設立 代表取締役就任
- 2016年 有限会社松本鉄工所(現(株)松鉄エンジニアリング)代表取締役就任、現在に至る

財総合支援窓口にご相談すると良いと思います。私もそうでしたが、何をすればいいかわからないなら流れに任せてみるのも1つの方法です。とりあえずやってみることで結果的に何がかわると思いません。当社の場合は、人材への投資の方向が明確になり、加速的支援の前は10名だった人員が現在20名に増えました。

知財窓口の支援担当者は、当社にとって外部社員のような存在です。知財に関して私たちは知識が少なく、支援担当者や専門家との会話が全てヒントになります。月に一度くらいは何かお願いしたり、質問したり、連絡を取っていますが、その存在によって励まされ、あらゆるシーンで背中を押されている感じがします。